

「スマートネーション・イノベーション週間」開催

碓 知子

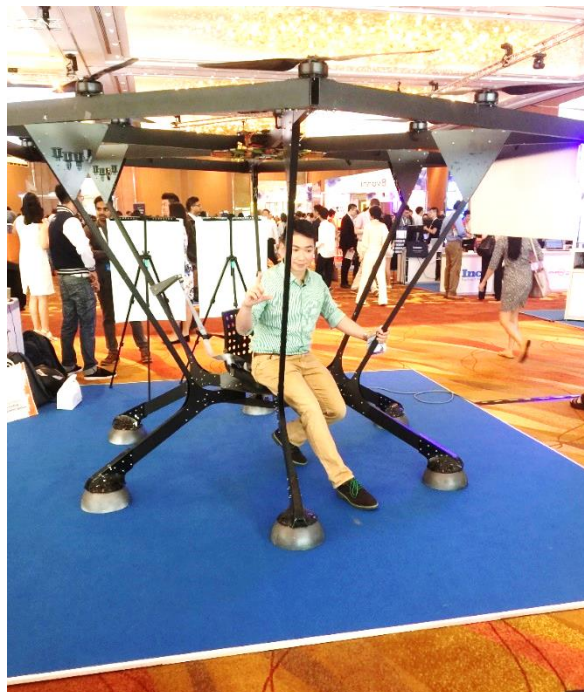
世界初のIT国家「スマートネーション」を目指すシンガポール。目標は、単にITインフラを充実させるだけでなく、IT（情報技術）、ネットワーク、データを統合し、さら国民1人1人がそれを使いこなせるようになることです。政府の肝入りによる充実したインフラは既によく知られていますが、インフラを利用した技術やアプリ、その研究開発や商用化を支援する資金、商用化されたアプリや技術を使いこなす消費者や企業があって、スマートネーションは実現が可能になります。シンガポールはスマートネーションの実現のために2014年11月、スマートネーション・プログラム事務所を立ち上げ様々な取り組みを実施してきましたが、日本のゴールデンウィーク期間中、「スマートネーション週間」として様々なイベントが開催されました。

＜人材育成は子供から＞

4月29、30日の週末は、「Tech Singapore」という子ども向けのゲームや教育ソリューションの体験イベント。スマートネーション人材育成の一貫として、小学校でのプログラミング課程をいくつかの学校で試験導入していますが、学校外でプログラミングを学ぶ子供たちも多いシンガポール。子供向けハッカソン※¹では、9歳から18歳が参加。小学生くらいの子供たちもパソコンに向かってプログラミングの競争です。会場では他にもバーチャルリアリティを用いた教材、ドローン、3Dプリンティングなどが紹介され、子供も大人も最新のツールを実際に体験。私もバーチャルリアリティ（VR）で医師向けの手術トレーニングというツールを試してみましたが、VRグラスを付けると、目の前が手術室になり、手にはメスが握られ、中々面白い体験でした。（血が苦手な人にはお勧めできませんが。）



(1) 開場を待つ人



(2) オートジャイロ

＜最新技術とトレンドのショーケース＞

ビジネスマン向けのイベントは5月3、4日に開催された、「Innovfest Unbound」という国際会議兼展示会です。スマートシティ・スマートネーションだけでなく、その実現に必要なフィンテック(金融テクノロジー)、メディア・広告、人工知能など様々な分野で、セミナーやパネルディスカッション、ベンチャー企業と投資家のマッチメイキングセッションが行われました。大学や研究所、ベンチャー企業の研究開発の紹介が行われていた展示場も常に人だかり。写真②は、シンガポール国立大学が研究中の1人乗りオートジャイロです。その他、ニールソン・ノルディックが開発した高齢者向けに体操をコーチするロボットなど、高齢化のシンガポールならではの開発案件も紹介されていました。

日本からの出展はありませんでしたが、オンラインゲーム大手であるガンホー・オンライン・エンターテイメントの創業者で、ベンチャー投資家の孫泰蔵氏などがスピーカーとして登壇していました。

子供向けのゲームやアプリも、スマートネーションで使える技術も日本にたくさんあるはず。ぜひ、こうしたイベントを海外ビジネスのステップに活用してほしいと思います。

シンガポールのスマートネーションへの取り組みについては、こちらのウェブサイト詳しく書いてあります。<https://www.smartnation.sg/>

※1「ハッカソン」(hackathon)とは、広い意味でソフトウェアのエンジニアリングを指す“ハック”(hack)とマラソン(marathon)を組み合わせた米IT業界発祥の造語で、もともとはプログラマーやデザイナーから成る複数の参加チームが、マラソンのように、数時間から数日間の与えられた時間を徹してプログラミングに没頭し、アイデアや成果を競い合う開発イベントのことをいいます。